

2月の生活表

2022年 2月

聖マリア幼稚園

月主題：わかちあって

・保育日数（18日）

月目標：

- （3歳）・家族や友だちのために自分から祈ろうとする。
- ・好きな友だちと誘い合って遊び、気持ちが通じ合うことの喜びを感じる。
- ・わらべ歌や鬼ごっこなど、ルールのある遊びを楽しむ。

（4・5歳）

- ・一人ひとりが神様から違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす。
 - ・嬉しかったことや、休んでいる友だちのことなど、自分のことばで祈る。
 - ・遊びの中で、共に喜ぶ経験を重ね、共に明日を楽しみにする。
- <保>保護者や同僚と子どもの歩みをふりかえり、成長を喜び、課題を心にとめる。

梅の花の蕾も少しづつ膨らみ始めています。3日に節分を迎えると、暦の上ではもう「立春」。嬉しい暖かな「春」が待ち遠しいですね。さあ、ひとつ上の学年に進むのももう目の前ですよ。親も子どもドキドキが止まらないかもしれませんね。特に緑組さんは自律(立)を心して大きな社会へ踏み出そうとしているのですから、親御さんにとってはさぞや不安も募ることでしょう。だって、お子さんと子離れして、今までのように送り迎えもなく、その時間は殆ど見えなくなるのですから。そんな不安を持って歩む後2ヶ月の緑組さんの日々、そして進級する花組さんと赤組さん。でも大丈夫! 生活の規律を自覚しつつ、登園してきたら一生懸命お友だちと遊び、共に喜怒哀楽を感じつつ、心を通わせて楽しんでいるということがよく判るからです。何事においても子どもはプラス思考であって欲しいと思います。大人の場合は様々な事情を考えると単にプラス思考とはいえないかもしれませんが。それでも、必ず自分に合った示しが与えられるのではないかと考えます。子どもたちは尚のこと、大人と一緒に迷い、危惧し、俯いていたのでは、子どもたちはどうして良いのか分からなくなります。大人の喜怒哀楽の起伏が鮮明すぎても困りますね。大人は様々な状況を見定めてお子さんを受け入れなければなりません。大人が我慢しなければならない時もあるでしょう。だって大人なのですから。そうして受け入れてもらったお子さんは安心して、又離れていけるのです。環境が変わると言うことは、子どもにはそんなに容易なものではないかもしれません。性格によるかもしれませんが。いずれにせよ子どもたちは自分の人生を歩み始めるのです。ご両親がそうであった様に。この「春」を迎える時期は、そんな大切な親子関係を見直し、我が子のために何を、どんな風にして示せば良いのかとハタと考えられるチャンスではないでしょうか。そして自分がどのように育ってきたのかな? こんな時、自分の親はどの様な対応だったかな?などを振り返ると言うのが一番の基本的な子育てなのでしょう。もちろん反面教師もあります。両親から与えられた物心両面について、今パートナーと共に、授かった我が子に対し何を望みますか? まずは丈夫に育ってくれること、神様から頂いた賜物を磨けるようにしてあげること、親は子どもの為に毎日「祈ること」ではないでしょうか。何を? それは、大切にしたいことは何かということですね。そこに新たな価値観が生まれるはずです。ここで守られるあと少しの時間をどうぞ共に楽しみ、子どもたちの心に添い乍ら、神様に感謝のお祈りを捧げましょう。

《 チャプレンコーナー 》

2 月月間主題：わかちあって

月聖句：その家に入ったら、『平和があるように』と挨拶しなさい。

（マタイによる福音書 10：12）

今月の主題聖句は、イエス様が12人の弟子たちを、宣教のために派遣された時の言葉の一部です。イエス様は弟子たちに、質素に、誠実に、情熱をもって、病人を癒し、神様の愛を伝え、未来の希望を人々と分かちあうようにと教えました。弟子たちの活動を、一言で要約するなら、「平和を広める」ということになりましょうか。そのことを現すのが、この挨拶の言葉です。ヘブライ語の挨拶の言葉は、「シャローム」です。これは「平和」という意味で、「あなたに平和があるように」という思いを、一言で表現したものです。朝昼晩、全てのあいさつで「シャローム」と言います。アラビア語の「サラーム」も同じ意味です。韓国・朝鮮語の「アンニョン」も同じ意味で、漢字では「安寧」と書きます。挨拶は、相手への思いやりを、短い一言で表現したものなのでしょう。挨拶を通して人々は、「あなたを愛していますよ」と伝えているのです。日本語の挨拶も同じです。「お早くからご苦労様」「今日の具合は如何ですか」「今晚は良い夜ですね」と、相手を気遣い、苦労をねぎらい、相手を大切にする思いを、一言で表現した言葉です。挨拶は、言ってもらうと嬉しいものですが、自分が言っても、嬉しく元気になるものです。怒った顔で挨拶はできません。たとえ習慣になっいて、何気なくしているものでも、挨拶をすると自然と笑顔が出てきます。

イエス様は挨拶を通して、神様の愛をみんなに伝えてくださいました。

私たちも挨拶を通して、お互いの愛を深めていきましょう。



おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆冬₁の健康に気をつけましょう。

- ・未だ収束の目処が立たないコロナウイルスの禍い。子ども自身で十二分な手洗いとうがい
が、時と場に応じて必ず施行できるよう、習慣づけましょう。
- ・十分な睡眠（早寝・早起き）そしてバランスの取れた食事（朝夕のご飯）をご用意下さい。
体調の悪い時には、おかゆなどの消化のよい食事をお願いします。
- ・ステイホームが強いられる中、家のなかで「楽しいこと」を探し、見つけて頑張りましょう。

☆親子(家族)の会話を大切にしましょう。

- ・絵本や素話、日々の出来事や新聞掲載の社会事象等に触れながら、家族で話し合いをしてみ
ましょう。（日本の国内外に目を向けましょう。）

☆冬から早春を迎える自然の移り変わりに目を留めてみましょう。

- ・園の周りにはどのような草花、樹木があるのでしょうか。早春を見つけてみませんか。
- ・暦上の節分の意味を知り、太陽の明るさ、日の出、日没時間の変化、雑草の芽吹き、木の芽
等の変化を見つけ合い、心の養いとしましょう。小さな新しい命が芽吹いてきていますよ。

<クラスだより>

花組

雪化粧をまとう京都の街の美しさを子どもたちに見せてあげることが出来た今年の冬。「ずんずんつもる〜♪」何て歌いながらもそんな光景を見ることの叶わない冬もありますが、今年は見て触れて感じて遊んで！と満喫したのではないのでしょうか。そうしている内に『節分』です。もう暦の上では春を迎える...もう進級はすぐそこにきています。花組さん9名で過ごす残された僅かの日々。コロナ第6波・感染拡大とまた私たちの日常がいつどんな事態に直面するかもしれない不安は募るばかりです。しかし、泣いても笑っても時は過ぎていきます。立ち止まってはいられません。幼稚園とご家庭とが一丸となり、子どもたちの為に出来ることを考え、時には我慢することと折り合いをつけることも大切でしょう。そして、子どもたちの行く道をしっかり示しつつ、導き、見守りながら大切に過ごしていきたいと思います。

進級を見据え、赤組のお椅子に憧れを抱き、「1日1人だけが座れるとっておき」に素直に喜びが表情に溢れ出てニヤニヤが止まらないお友達。自信と自覚をもって誇らしげにお背中ピン！と伸ばすお友達。どうぞ！と勧められても何だか恥ずかしいやら、遠慮しようかな〜のお友達。と反応は様々で本当に可愛らしいやら頼もしいやら。そんな中、同じ気持ちで背中をこれ以上ない程に精一杯伸ばして横目でチラリと先生にアピールする小花ちゃん！もう！どうぞ！！と言いた

くなる先生たちですが、そこは、小花ちゃんはお椅子の色は変わらないけど4月から花組のリーダーになって欲しいことをお話しすると、最初は「赤のお椅子でも座れんのに...」とお口が少し尖がっていましたが、その翌日には「はいはい、リーダーになりますよ!」と、何て頼もしいことでしょう。乞うご期待ですね。

先日、小花ちゃんにお箸とスプーンとフォークの使い分けを確認しながらお弁当給食をいただいていた。そんな時、上手に使い分けながら更に持ち方も扱い方も上手な本花のお姉さんをお手本にするように促していました。すると、先生が席を離れて用事をしながら子どもたちの方をみると、小花ちゃんが一生懸命にスプーンを教えてもらった持ち方でご飯をすくおうとしていました。その瞬間、お隣に座っていたお姉さんが、「〇〇ちゃん、〇〇ちゃんが上手だからね、見てごらん。そしたら出来るよ! そうそう! 上手だよ!」とアドバイスし、更に褒めてあげていました。うんうん、とその通りにしていた小花ちゃん、上手になってきました。先生が言わない時も、お友達を気にかけ、そっと優しく声を掛ける姿に心が和みました。この時だけでなく、花組さんは本当に自然と声を掛け合う何とも子どもらしく、優しさに溢れています。ご家庭で大切に大切に愛され育まれた心、赤組・緑組さんからしてもらったことを感じ、しっかりとそれをお手本にして習得し、お友達に思いやりを持って接することが出来るという幸せな連鎖。このまま、大きくなってほしいな~と思います。その為に、今は小さな花組の社会の中でしっかりと自分を発揮しながら、他者を認め思いやり、同じ場所や物や思いを共有し、分かち合いながら、毎日喜びを積み重ねていきたいと思います。そして、いつも私たちには神様が共にいてくださることを忘れずに。

赤組

朝、子ども達が登園する前の静かな園庭のお掃除をしながら、お庭の桜の木を見上げました。こんな寒さの中でも、春に向けて、少しずつ芽を膨らませ、きれいな花を咲かせる準備を進めています。夏には緑だった葉っぱも、秋には赤や橙に染まり、冬の風によって散らされてなんだか寒そうです。しかし先日の雪の日には、真っ白い真綿のようなお布団を着せてもらっていた桜の木。同じ園庭という場所でも、季節によっていろんな世界を見せてくれる、神様が創られた世界はおもしろいなあと、日本には四季があってよかったなあと同時に、こういう四季の移り変わりを子ども達と感じられることに、改めて幸せを感じながら、朝の静かな時間を過ごしている今日この頃です。

寒い中でも、春に向けて頑張っている木の芽。これは今まさに進級に向けて頑張っている子どもたちの姿と重なりました。個人懇談のお話の中で、何でも嫌と言ってお家の人を困らせていたり、自分の好きなものしか食べなかったり、お家での甘えている姿が見えてきました。また、「もう少しこんなところを頑張りたい」と思っているけれども、なかなか挑戦しようとしなないんです。」とお話して下さったお家の方もおられました。赤組保育室にある1脚の緑の椅子。その椅子に座りたいという気持ちで、進級を楽しみにしている反面、幼稚園で一番大きくなるということへの不安を感じている子も多くみられるからこそ、時にはお家や幼稚園でお父さんやお母さんに甘えたい、先生にべったりくっついていたいそんな姿でもあるのではないかと感じています。先々を見ることのできる、真面目な赤組さんだからこそ、緑組になったらこんなことも

できる、あんなこともしてみたいという挑戦したい気持ちと僕にもできるのだろうか？私も緑になれる？という不安な気持ちが子どもたちの小さな心の中で格闘しているようです。でもそんな葛藤を知ってか知らずか、苦手なことに挑戦するお友達を「こうやってやってみたらいいんだよ」とお手本を見せながら応援する姿、お友達の素敵なおところを「〇〇くんはお友達のためにお祈りできるのが優しいところ」と素直に言葉で伝える姿があります。私もそんな子ども達を応援したい、私ができる応援とは？そんな子どもたちの不安な気持ちに寄り添いながらも、けじめをつけること。甘える時には思う存分に甘え、自分の力で何とかしなければいけない時には、子ども達の力に任せる。何もわかっていない子ども達ではありません。でも甘えられるなら甘えていたい、お家ではどこまで甘えられるのかを試していることもあるかと思います。だからこそ、今はその時じゃない、今は自分達で頑張る時ということをしっかりと伝えていきたいと思います。

2月3日は節分。心の中にいる甘えん坊鬼、いやいや鬼、怠け者鬼、、自分達で気づき、自分達で追い出そうと意識しなければ追い出せません。節分を前にもう一度自分の心の鬼と向き合い、共に追い出し、また更に心が成長した姿で素敵な春を迎える為の準備をしたいと思います。

こういった状況の中で、なかなかみんなの顔がそろわずに、1日1日が過ぎて行ってしまうのがとても残念です。先が見えない感染の拡大、元気なのに幼稚園に来られないお友達の数が増えていくこと、経験したことのない不安が押し寄せてきます。そんな中でも子ども達の新しい芽は膨らんでいきます。どんな形で開催できるのかまだ分かりませんが、春の集いで大きくなった姿を見て頂けますように。今はただ子ども達と準備を進めながら、お祈りするばかりです。

緑組

先日我が家に1枚のDVDが届きました。私が6歳。緑組の子どもたちと同じ年の冬に、ご近所の方と一緒に初めてスキーを経験したときの映像でした。今のようにきれいな画像ではありませんが、当時の自分の姿、姉や母の姿が収められていて思わず家族で見入っていました。はじめてのスキーに戸惑い、スキー板に足を取られて思うように動けない、滑ると転び手足が冷たくなり、上手くいかにすることに苛立ち、心折れていく感情が手に取るように思い出されました。「あの頃と何も変わってない…」映像に映し出された自分のふてくされた表情。恥ずかしながら何をするにも物怖じし、そのくせ調子がいい性格で、母に言わせると「あんたは、ようわからん子やった、まあ今もやけど」と言われる自分のことを、今なら多少は理解できるようになりましたが…。

「自分が子どもだったころ」...と思い返すことがよくあります。親に言われたこと、してもらったこと。学校やお世話になっていた方々の言葉、それら一つ一つが、当時の私にとっては時には自分を否定されているように感じたこともありました。自分が大人になり、当然のように自分が正しいと子どもに投げかける言葉や態度を振り返ったとき「自分が子どもだったら、どう感じたか」という感性を忘れてはいないか？と反省することがあります。「大人が絶対ではない」...子どものためにと投げかけ、寄り添うことは力で押し切ることはではないし、かといって「あなたの好きにきなさい」と6歳の子ども選択に大人が従うことでもないでしょう。でも我がこととして、目の前の子どもの立場に立って思いを寄せることが大人にはできます。自分にも子ども時代があり経験を通して様々な感情を心の襞として刻んできたからです。これから先の子どものことを

思いあぐねて、子どものゆく道を大人は整えすぎないように、逆に経験と知性が未熟な年齢の子どもに対して、自由を与えすぎないように注意しなければなりません。大事なことは「けじめ」をもって子どもと向き合うこと。善悪の判断、道徳心を養い「ダメなことはダメ」だと叱ること（やみくもに怒ることで子どもの耳を通り抜けてはいないでしょうか?）、そして親子で自分の思いを表現し合うこと（伝えなくても子どもの思い通りになる環境になっていませんか?）です。子どもの育ちに悩んだとき、困ったとき「自分が子どもだったころ」を思い返すと共に「大人に与えられた言葉や行い」が今の私たちの糧になり、役にたっていることがあるのではないのでしょうか?時代は変わっても子どもは変わらない。子どもは...物を隠したり、落書きをしたり、大事なものを投げたり、時にはおねしょをしたり、時間にルーズで、遊びが優先、口答えをして、生意気なことを言って、「もう小学生になるのに!」と大人をイライラさせる。正に子どもが子どもらしく生きている。それは微笑ましくも悩ましい。子どもという宝物を守るためには、大人は真剣に向き合って、時に正して、時に突き放して、時には抱きしめ、時には頬を叩きたくくなるような衝動と向き合い、根気よく付き合っていかなければならないのですね。それが愛情なのだと。

音声もないスキの映像。転んで泣いて、怒って、ストックに頼って起き上がろうとする私に「モノに頼るな、自分の体を使って起き上がれ」と何度も声をかけられていたことを思い出しました。